

報 告

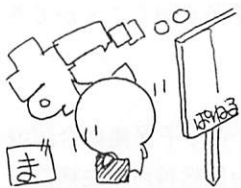
第22回医学情報サービス研究大会参加記 — 初めての医学情報サービス研究大会 —

松尾 知香

今年の第22回医学情報サービス研究大会は2005年7月9日(土)、10日(日)の両日、愛知医科大学で開催されました。

今までは全く機会に恵まれずに参加することができずにいたこの大会、実は開催の当日まで不安と期待でいっぱいでした。不安の大半は、前日までに宿泊するホテルがなかなか決まらなかったこと、また“ウルトラ”方向音痴のため、当日会場に到着できるか否か、ということでした(苦笑)。

愛知万博へ行かれるお客さんに紛れてバス停に行き、揺られること約20分。いざ大会の会場に到着すると、まず会場の大きさに目を丸くし、運営していらっしゃる方々の対応のすばらしさ



に涙し、そして大会が始まってからの参加者の人数の多さに口を開き、もうすっかり“おのぼりさん”状態でした。

名札にはもちろん、今日本で知らない人はいない(と思われる)愛知万博のマスコット“モリゾー&キッコロ”がデザインされており(家での保管場所は“お土産物”)、また名札の台紙は参加回数により色分けされていました。松尾は初参加だったので“黄色”でしたが、全大会参加者は“虹色”だったそうです。残念ながら、大会中に実物



まつお ちか：石切生喜病院図書室

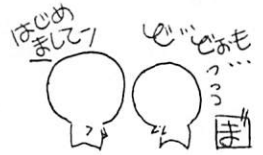
をつけていらっしゃる方にお目にかかることはできませんでした。

大会の内容は、一般口演では“医学雑誌関係”に“患者図書館”“利用動向分析”“大学図書館における文献複写の現状”など、現在の医療情報を取り巻く環境を把握できるようになっており、「…では自分はどうしていけばいいのか?」「他の図書室・図書館の方はどうされているのか?」「そのことについてどう思っているのか?」などを自分の“今”と照らし合わせ、考えながら聴講できました。またポスターセッションでは、病院図書室からでは規模が大きすぎて想像のできない“大学図書館”を垣間



見ることができ、「…ではそれをどのように病院図書室で反映させるか」を考えるきっかけになりました。久しぶりにアタマを使いすぎて、ちょっと疲れてしまった感もありましたが…。

この大会は、松尾にとって別の意味でも心に残りました。普段、電話での声しか知らなかったり、文献複写のFAX文章でしかやりとりをしたことがなかった“担当者ご本人”と直接お会いし、お話しをすることができたからです。「ハッ、あのお声は!?!」といったような発見、“想像通り”の方から“意外”な方までいらっしゃる、本当に楽しかったです。



初日の帰り、ものすごく辛い（これは“ツライ”とも“カライ”とも読むのです。まさに当時の気もちと一緒に“笑”）ラーメンを食べました。でも再び食べたくなるのがこの“カライモノまじっく”。また名古屋に行った際には友人

をつれて食べに行きたいと思います。

最後になりましたが、この大会を支えてくださった関係者の方々に、心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました!!